

会 議 録

1 会議名

平成28年度第7回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

谷浜・桑取区の子育て支援について（公開）

【協議事項】

平成29年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年2月17日（金）午後7時00分から午後8時13分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、荷屋和夫、平野宏一、山田ヒロ子、横田正美
（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：荷屋委員に依頼

議題【自主的審議事項】谷浜・桑取区の子育て支援について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

・資料No.1 「地域課題に関する意見集約表」に基づき説明

【高橋会長】

資料No.1に出ている課題について、実現できるのかということも含め、重要度の高いものはどれか、整理しながら議論していけばいいと考えている。

資料にある中で大事なものは何か、いくら大事でも、実現するのが難しいのであれば引き続き議論していきたい。早く解決できる課題は何かも含め、整理しながら話し合いをしていただければと思う。

意見等はあるか。

【安達副会長】

1月26日（木）に「町内会長連絡協議会との意見交換会」を開催して、少し前進しそうだと感じたのは、「桑取川の水量」の件である。水利権を放棄している、という話もあるが、放棄していたら、いくら地域協議会で議論しても仕方がないが、本当のところはどうなのか分からない。10年に1回の頻度で見直しがあるようだが、「承諾するしかなかった」というような意見もあったから、その辺はどうなのか。意見交換会の最後で、町内会長連絡協議会の丸山会長が「よく理解していない人もいるので、町内会長と地域協議会とで現地を視察したらどうか」という提案があり、それも良いと思った。

そして、「耕作放棄地」の問題だが、どこでも状況は同じかもしれないが、何とかできないものかと感じた。きちんと区画整理がされておらず、どうすることもできない。上越市に言ってもどうしようもないことかもしれないが、きちんと声に出していくことが大事なのではないか。

【高橋会長】

確かに、自然を「売り」にしている谷浜・桑取区だから、「水の問題」、「耕作放棄地の問題」が課題になっているのかもしれない。

他にはどうか。

【荷屋委員】

桑取川の水量の問題は、地域協議会で論議しても始まらないと思う。何十年も前に水利権を放棄していると思うが、県に話をして、少しだけでも水を廻してもらおうことしかできないのではないか。

【高橋会長】

「水利権」の話になれば、荷屋委員が言われたようなことになるかもしれないが、「水利権を放棄したから全て水量を献上する」ということではなかったように思う。

先日の市議会主催の「市議会議員との意見交換会」で、名立区地域協議会の会長と副会長にお会いした際、名立区地域協議会でも「名立川の水量が少ない」ことを、問題視しているようで、谷浜・桑取区地域協議会と一緒に市や県へお願いしていこう、という話をされていた。

それと、「取水ダム」についてだが、私も以前、町内会長をしていた時に利水事務所の主催で現地を見に行っていたが、当時の町内会長も替わっていると思うので、町内会長と一緒に「取水ダム」の見学に行くのも良いと思っている。

私が見に行った時は、ダム自体にも水がほとんどなかった。

【安達副会長】

詳しいことはよく分からないが、巷の話を聞くと「桑取川の水は、上水道としては使わず、水力発電に使うくらいではないか」と言っていた。

町内会長連絡協議会の丸山会長が「市や県へ要望するかどうかの検討材料になるので、現地を見る必要があるのではないかと」言われていたので、それを皆さんでやってみたらどうか。

【小林委員】

5月から9月までは、谷浜土地改良区が中心となり農業用水として使用するための申請をしている。見に行っても大したものは見られないのではないかと。

【高橋会長】

「取水ダム」の水は、全て後谷のダムへ行き、そこで溜めている。そこから工業用水へ流したり、上越市の上水道になったりしている。

【小林委員】

本気でやるなら植林等の手当をしないと無理ではないかと。

【高橋会長】

意見交換会では、内水面について、平井西山寺町内会長が発言されていたが、今まで個々にやっていたものを地域全体の問題として捉えていきたい。地域協議会も間に入り、名立区地域協議会とも一緒になってできるのか、皆さんと相談していきたい。

【小林委員】

水不足は、基本的に天候である。雪と雨が降らないと駄目である。

【高橋会長】

では、当面、意見交換会で出た意見を、少しでも前に進められるものがあれば相談し、場合によっては、関係団体と打ち合わせしていきたいと思う。

正・副会長と事務局で調整し、協議会内で提案できれば、していきたいと思っている。他に意見等はあるか。

前回、「空き家対策」について少し触れた。特効薬がないと思っていたが、潮陵中学校の生徒が調べてくれていた。学校としても、生徒が調べているので、もう少し役に立つ資料ができれば良いと話をしていた。地域協議会としても、地域の活性化のために地域活動支援事業を使って、そういう調査をするグループに支援してもいい。町内会長と相談しないと、調べるのも難しいかもしれないが、何かのきっかけ作りをするのもいいのではないか。

意見交換会の際に、佐藤峰生委員から鍋ヶ浦町内会の状況を話してもらったが、委員の中でも整理しながらできることがあればと思うが、どうか。

【関川センター長】

意見交換会でも出ていたが、「空き家」と言っても「活用面」、「安全面」、そして最近、新聞等で妙高市の事例が報道されていたが、「個人の権利」をどうするのか等、なかなか条件が厳しいのかなと思う。方向としては、「空き家」ということで一括り出来ると思うが、その中で、どのような方向に向かって検討していくか、ということも考えていなくてはいけない。

【高橋会長】

富裕層は来ないかもしれないが、住宅を建てる費用を安くしたい、という若者がいて、住んでみたら環境も良い、子育てにも良い、というようになれば、同じように住んでくれる可能性があるのではないか。1組でも2組でも住んでいただければと思っている。

【安達副会長】

安全面を考えると、各町内での空き家の情報を出すことが必要になってくると思う。

20年近く前、有間川でも空き家があり、そこは子どもの「遊び場」になっていたが、危険なため、所有者と話をし、整理してもらった。今は、子どもが少なくなってきて、子どもが遊ぶことはなくなったが、近隣の方や、いつも通りかかっている方たちから困っている、というような声が出ている等の実態を把握するべきではないか。

【高橋会長】

空き家になっているところへ、住宅費を安くしたい、という方が来てくれれば、それで良いのであって、無理して住んでもらいたい、という訳ではない。

私が、町内会長をやっていた時、「空き家がないか」という電話をもらったことがある。その時、情報を持っていなかったなので、そのまま終わってしまったが、そういう点では、住宅費を安くしたい、という方がいて、効率的に生活をしたい、という方たちがいれば住んでいただきたい。

町場では、倒壊の危険があり、隣近所に迷惑を掛けるから解体しなくてはいけないが、更地にすると、固定資産税が高くなるから、壊れそうであっても建物だけは建てておく、というような税金対策を考えている人もいる。

【安達副会長】

桑取地区の空き家問題はどうか。

【横田委員】

北谷から奥に関しては、あまりないように感じる。所有者は町場に出ているけど、週末には帰ってきたり、畑だけ桑取地区にあって通^{かよ}っている人がいたりする。

1年を通じて考えれば、雪も降るし、夏場は暑くてエアコンが欲しくなるし。昔ながらの家をそのまま使うとなると、追加での整備が必要になる。

【安達副会長】

では、桑取地区はあまりないということか。

【横田委員】

そんなにはないと思っている。あつたとしても取り壊したのではないか。

【安達副会長】

土口辺りはどうか。

【佐藤寿美子委員】

空き家はあるが、畑や田んぼがそのまま、お盆や正月の時期になってくると所有者が帰ってきたりしている。ただ、外観が良くない家があるが、どこへ伝えて対処すればいいのか分からない。所有者へ言っても駄目で、市からも所有者へ伝えてもらったが、それでも駄目だったようである。

【安達副会長】

所有者の方たちは、その家を使わないのか。

【佐藤寿美子委員】

畑や田んぼをする時に来るだけで、雨漏りしていても、あまり気にならないようだ。

町内や市から言っても駄目なので、そういうものをどうにかしてほしい、という希望はある。

【高橋会長】

少し手を掛ければ住める空き家と、今の話のように普段は居住していないが、農業をする時の山小屋代わりに使っている人もいる。「空き家」と一言で言っても、いろいろな種類がある。

潮陵中学校の生徒が地域の課題として空き家調査を行い、みんなで地域を見つめ直しているということは、とても良いことだが、それに対して、大人が全く反応しないというのもどうかと思っている。

【佐藤峰生委員】

意見交換会でも発言させていただいたが、「今ある空き家」と「これから発生する空き家」という観点で進めていかななくてはいけない。空き家対策と人口減少のカーブを、いかに緩くするか、ということセットで考えていかななくてはいけない。今、独り世帯の家は、5年か10年後には確実に空き家になる。そうした空き家が発生した時に、親族以外の方が住めるような状態にする仕組みが必要だと思う。不動産業者が仲介に入ればいいが、空き家になった家を売ると言っても、なかなか難しい。当然、親族の方も処理に困る。そういう時に、例えば地域全体でネットワークを作っておいて、「もし、もう住まない、ということであれば、こういう選択肢がある」というものを形にし、所有者に提示しておけば、地域内の方でも空き家を利用することができるのではないかな。そうすれば、地域の人口減少に歯止めが掛かるのではないかな。地域外から人が来てくれれば人口が増えることになるし、若い世代が来れば、子どもの数も増える。

谷浜・桑取区は、住環境・教育環境・通勤時間の関係で考えれば、他の地域と比べても劣るところはないと思う。そういう環境作りができないか、と思っている。

【高橋会長】

「空き家カルテ」みたいなものを地域で共有し合えば、それが一番良い。

その辺は、町内会長協議会も含めて、町内会長からある程度ピックアップしてもらえればと思う。

確かに、プライバシーに関わることも多いので、あまり調査しないでほしい、という

方もいるかもしれないが、協力していただける方から、調査に協力していただき、「空き家カルテ」みたいなものを作成すれば、地域としても、活性化の役に立つかもしれない。

【関川センター長】

潮陵中学校の生徒が調査しているとのことだが、どのレベルまで調査しているのか。

【高橋会長】

空き家の所有者の家まで行って話を聞いてきた、と校長先生が言っていた。子どもだから、却って所有者も素直に受け答えしてくれるのかもしれない。

校長としても、どこまで突き進めていけばいいのかを考えなくてはならず、大変だ、と言っていた。

【安達副会長】

私が聞いた話だと、子ども達は、空き家になっているから、もうその家は不要になったのかと思っていたが、「畑作業に来る、自分の生まれ育った家だから、壊したり、売ったりすることは考えていない」ということだったから、驚いたとのこと。中には「こういう考えの人もいたのか、と気づかされた」という子もいた。そういうレベルだと思う。いろいろな方から話を聞いた訳ではないと思っている。

【高橋会長】

前にも言ったが、以前、丹原にキャンピングカーを持って、移り住んできた人がいたが、今はいなくなってしまった。その方は、町内行事が面倒だ、ということだった。

今、地域に溶け込んで、地域の方も移住者を平等に扱うのは良いが、少し配慮することがあってもいいと思う。他から来た人に、突然何かをお願いしたり、何かをしなくてはいけない環境であったりすると、居づらくなり、引っ越してしまう。市としても、空き家の情報を公表すると言っているが、なかなか進んでいない。

空き家については、町内会長連絡協議会の丸山会長とも話をし、調査が出来れば進めていきたいと思っている。

意見交換会では、他にも「少子化問題」等も出ていたが、どうか。子どもの数をすぐに増やせない代わりに、老人が元気になれば、地域も元気になるのではないか、という意見も出ていた。老人会活動を含めたサークル活動がネットワークを手助けする、みたいな話もあったが、その辺りもどうか。

【安達副会長】

老人クラブの話は毎回話題に出ていて、全然勧誘に来ない、という話も出ている。長

浜には老人会がなく、桑取地区と谷浜地区で一つの連合会みたいになっている。協議会から働きかけるのもおかしいが、もう少し老人会があってもいいのではないか、という提案ができればと考えているが、その辺はどうか。

【小林委員】

西戸野では、10年程前に70歳代の方たちが老人会を発足し、継続して活動をしてきたが、60歳代の方たちを、あまり勧誘しなかったとのこと。私が前に住んでいた、さいたま市大宮区では年齢制だった。60歳になると自動的に会員になり、幹事とかは若い方がやって、いろいろな行事予定も作っていた。

【安達副会長】

桑取地区は、ほとんどの方が入っていると聞いている。

【佐藤寿美子委員】

勧誘に来る。

【安達副会長】

そういうことも地域協議会として働きかけていく。働きかけるのは、町内会長連絡協議会かもしれないが、「こういうことも大事」と声を出していかないと、地域協議会は何なのか、となってしまう。

【小林委員】

老人会に入るように働きかけている町内会はあるのか。

【安達副会長】

昔、長浜では、町内会から老人クラブに助成金が出ていた。

【山田委員】

市からも助成金が出ていたが、結局、役員のみなり手がいない。

昔、60歳になった家には勧誘が来ていた。会費を納めるだけの会員も多かったが、会は継続していた。だが、会長のなり手がなくて解散になった。その後、別の名前で老人会が出来たようだが、それも解散になったのではないか。

【坪田委員】

既に解散になっている。

【安達副会長】

有間川にも「親和会」という任意の団体があるが、桑取地区との連合会であったり、市に登録していたりすると、県からの補助金も貰えたりする。

【小林委員】

町内で勧誘するのか。

【安達副会長】

町内で勧誘している。60歳過ぎくらいから入ると、青年部になる。青年部の方には、旅行に行った際に、運転手さんと細かな打ち合わせをお願いしたり、具合が悪い方が出ると、すぐに連絡を取ってもらったりしている。

【高橋会長】

昔、野球サークルなどのいろいろな会があり、その中で老人会もあったが、今は、だんだん組織でなくても良くなってきている。町内会も市の下請けではないか、という議論をしていくと、無理して入らなくてもいいのではないかと。なるし、町場へ行けば、アパートに住んでいる人で入っていない人はたくさんいる。

どんどん人とのつながりが希薄になっていってしまい、益々、社会から孤立していくのではないか。組織を維持していくのは、労力がいる。役員をしてくれる人も必要なので、地域協議会から発案して、それが少しでも役に立つのであれば発信していきたい。老人会の件を議題にすることによって、町内会長へもお願いしていけば、少しは良い方向に進むかもしれない。

【安達副会長】

老人クラブに限らず、活性化に繋がると思えば、地域協議会から具体的に働き掛けていけばいいのではないか。

【小林委員】

以前、事務局から配布された資料で「人口のデータ」があったが、それを見ると子どもだけの問題ではない。何年か後には、人口が半分になる。活性化させるなら、老人の活動を支援することから始めたほうがいいのではないか。

上越市は、行くところがないから仕方なく病院に行くみたいになっている。なので、人が集まるサークルとかがあるといいのではないか。

【高橋会長】

老人会の問題は、高住のほうで「第一和泉会」、「第二和泉会」があるが、鍋ヶ浦、茶屋ヶ原、吉浦辺りはない。有間川と一緒に老人会でもいいのであれば、入っていただいてもいいと思う。長浜が一番大きいから単独でも作れるのではないか。

【坪田委員】

昔は各町内で青年部や婦人会、老人会があったと思う。未だに上越市藤塚には、規約なのか、暗黙の了解なのか分からないが、炊き出しとかがある場合、自動的に婦人部が集まってくる。強制でもなく、地域の昔からのものを守っているのだと思う。青年部は、何歳以上になったら加入する、と統一されている。その辺が、昔ながらの規律の良いところであって、今は、いろいろな理由で崩壊している。

個人で老人会を立ち上げる、というのは難しい。規約ではないけど、強制力のあるものを作り、取り組まないと活性化は図れないのではないかな。

私が会長をやるから集まってくれないか、と言ってもなかなか人が集まらない。活性化させるためにも、各町内会で強い気持ちを持って立ち上げていかないと厳しい部分がある。

【高橋会長】

有間川の場合、老人会以外に、子ども会や青年会があるが、勧誘に行かなくても該当者は入ってもらっている。小学生や保育園に入っている子ども達は、「子ども会」で一括りにしていると思う。

【安達副会長】

すぐに子どもが増える訳でもないので、お年寄りが元気になる方法を考えるべきだと思う。

【高橋会長】

では、今後の方向性としては、町内会長連絡協議会とも意見交換をしながら、各町内で活動できるようなシステムを作ってもらおうよう働きかける。

【坪田委員】

町内会長との会議で議題として出すのであれば、出来れば、「町内会長」という役職を持ち回りすることを止めていただきたい、ということも出して頂きたいと思う。各町内の考え方があるから、致し方ないかもしれないが、現状は、「町内会長をやる人が町内にいないので、一年おきに回しましょう」となる。そうなると、地域の情報共有や活性化と言っても、町内会長自身が実態としては掴めず、何かしようとする気持ちも湧いてこない。「町内会長は1年だけだし、広報だけ配っていればいい」というような感覚があると思う。町内には、必ず先陣を切って、何かをしてくれる方がいると思う。その方を称賛しつつも、何かをしていただくという方向へ導いていかないと、組織が活性化していくのは難しいと感じている。

【高橋会長】

確かにそうかもしれない。では、そこを含めて町内会長連絡協議会へ伝え、必要に応じて話し合いの場を持ったり、地域活動支援事業を活用し、工夫できればと思う。

自主的審議は、「谷浜・桑取区の子育て支援について」から始まっているが、子どものことだけではなく、老人会のことでも進めていかなくてはいけないし、空き家や自然が、どう維持されているかについても目を向けなければ、この地域そのものが元気になっていかないのではないかと思う。

本日出た意見を、再度整理し、町内会長連絡協議会へも伝えていきたいと思う。すぐにどう、こうできる問題ではないので、新年度に入ってからでも、各種団体との意見交換等をできれば開催し、模索していきたいと思う。

【安達副会長】

子育て支援の関係で「放課後児童クラブ」の件だが、立ち上げた経緯は、隣近所に子どもがいないから、学校の長期休暇の時に子ども同士を遊ばせることができない、というPTAからの要望があって立ち上げた。その時は、過疎地であり、祖父母が家にいても、夕方は田んぼや畑に行くので、祖父母が同居していても放課後児童クラブは利用できる、ということが条件だった。

開設から7年程経ったが、初めは福祉の観点だったので、こども福祉課（現：こども課）だったが、3年くらい経って教育委員会が担当になり、一律で「祖父母がいるから入れない」となってきたという話を聞いた。以前は、20数人いた利用者が、今は3、4人、多くて5人くらいとのこと。また、他の放課後児童クラブの例だが、土曜日にも利用したい、と言ったら、その職員が、両親が本当に勤務しているか調べたという話も聞いている。春日区や有田区は利用者が多くて、春日新田には2か所くらい放課後児童クラブがある。そういう所と中山間地では、事情が異なる。中山間地支援というのは、きめの細かいところを見ていかないといけないと思う。人口の多い地域を基準として見ていることが強くなってきているのだと感じた。これは、地域協議会でも声を出したほうがいいと思った。教育委員会は、そういう実態を知らないのではないか。

児童クラブを要望して立ち上げた時に、市の人との申し合わせを文書にしていた訳ではないが、「過疎地の子どもの放課後を豊かにする」ということが大きな課題や目標だったのに、そういったものが忘れられているのではないかと感じた。

【坪田委員】

それは、上越市として一律で考えているからだと思う。地域性で考えていかないといけない。

【安達副会長】

教育委員会の、職員に対する指導が市内一律になっているのかもしれないが、過疎地には当てはまらない。

集落に子どもが1人しかいないから、放課後児童クラブで一緒に遊ばせる、ということが、大きな解決策だったはずなのに、そういったものがすっかり忘れられている。

中山間地を抱えている上越市としては、一律で考えるのは良くないのではないかな。もう少しきめの細かいところまでやっていただきたい。

【高橋会長】

今の安達副会長の話について、教育委員会の管轄で地域性を考慮した措置がとれないなら、他に自由にできる方法があるのかも含めて、事務局に調べていただきたい。

【安達副会長】

教育委員会は市内一律で考えているが、それに当てはまらないものもある。

【高橋会長】

だが、へき地だから授業内容を変えてほしい、学校の退校時間を勝手に決められるか、といったら、そうはいかない。

【安達副会長】

放課後児童クラブは、それとは違う意味合いがある。プラスアルファのものがあることを意識してほしい。

【高橋会長】

地域協議会の場で話をしても仕方ない。それが問題なのであれば、前の状態に戻せばいいのではないかな。

【安達副会長】

学校との関係性もあるので、教育委員会の管轄に置かれている状態でもいいのだと思う。

【高橋会長】

教育委員会としても、一定のルールがあると思うので、ルールを無視する訳にはいかない。

【小林委員】

学校側の見解はどうなのか。

【安達副会長】

その辺は、まだ聞いていない。学校側としては、子ども達が安心して過ごせる場所があれば嬉しい、とは言っていた。

【小林委員】

だが、先ほど会長が言われたとおり、一定の決まりがあるので、それを特別に変えたのであれば、地域協議会で議論する前に、学校側から提案してもらえばいいのではないかな。

【高橋会長】

では、放課後児童クラブの件は、また機会があれば議論していきたいと思う。

自主的審議事項については、町内会長連絡協議会や関連団体と相談して、桑取川の水量の問題についても陳情できるのであれば、団体と協力しながら進めていきたいと思う。

次に**【協議事項】**平成29年度地域活動支援事業についてだが、第5回の協議会で、皆さんから、いろいろと意見をいただいたが、平成29年度の地域活動支援事業も地域の皆さんからたくさん利用してもらいたいと思っている。提案した方から納得していただくためには、採決の際の議論も大事になってくる。

協議事項について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

前々回の会議で平成29年度地域活動支援事業の審査では、採否の判断のアイテムとして使用するための「採点票」を各委員に配布することとなった。

資料No.2のように、採点票（案）を作成したので、これでよろしいかご意見をいただきたい。

- ・資料No.2「谷浜・桑取区 平成29年度地域活動支援事業に係る採点について」に基づき説明

【高橋会長】

当初から、いろいろな議論があり、採点方式を取ると、点数にバラつきが出て、却って混乱するのではないかな、という意見もあったが、資料No.2のような採点方法でやっていると、提案者を納得させるためにも良い方法ではないかなと思うが、これに対し、皆さんはどうか。

【小林委員】

15点以上の事業が多数出てきたら、5点だとあまり差がつかないのではないかな。

【関川センター長】

採択するための、自分の中のアイテムなので、点数は自分で設定していただいても構わない。

【小林委員】

では、点数は付けるが、定量的ではなく、定性的にやればよいということで解釈する。

【平野委員】

第5回の会議で、採択方針や採択審議の方法は平成28年度と同様、ということで結審したと思うが、この採点表はどのように使えばいいのか。

【関川センター長】

再度説明させていただくが、この採点表は、委員の皆さんが、1つの事業を採択すべきか否かを判断するための道具として使っていただきたい。

まず、資料No.2の上段にある「採択方針」についてだが、ある事業が谷浜・桑取区の採択方針に適合しない、と判断すれば不採択になる。だが、上段で適合すると判断した場合、下段の項目を自分なりに点数で判断していただきたい。その合計得点が15点以上になれば、協議会での採択審議の際、採択ということで挙手をしていただきたい。

【平野委員】

これは公表しないのか。

【関川センター長】

公表はしない。採択事業は、委員さんの挙手で決まる。

【平野委員】

第5回の会議でも話したが、挙手にて採択が決まるが、不採択になった提案者の方々は納得していない。不満を持たれないように、点数を公表したらどうか。

【関川センター長】

段階として、まずは、これでやっていこうとなったかと思う。

【高橋会長】

採択の方法は今までどおりだが、自分の考えを点数で表すために、各自で点数を付けてほしい、ということである。

【安達副会長】

不採択になった事業の提案者の方々へは、どういう理由で不採択になったのかを事務局から説明してもらっている。平成29年度も同じである。

【関川センター長】

これからも、地域協議会の審議で出た意見を事務局で精査し、できるだけ提案者の方から納得していただけるように説明していきたいと思っている。

【高橋会長】

事務局からは納得していただけるように説明していただいていると思うが、それでも納得していただけないのなら、公開の会議なので傍聴していただいてもいいと思っている。委員が偏っているのではないか、という意見もあるかもしれないが、各委員が自分の中では、この部分が足りないと考えたため、13点くらいとした、というような判断をメモしてもらえれば、自分の反省にもなるかもしれない。自分なりに点数を付けて評価していただきたい。

採択する前の議論の結果が実際の挙手に現れてくる。

では、示された資料を各自の判断材料として使っていただきたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

- ・3月5日（日）地域活動支援事業募集説明会について報告

次回協議会については、諮問等の案件は入っていない。議題等が入り次第、正・副会長と打ち合わせの上、案内させていただく。

【高橋会長】

3月5日（日）の地域活動支援事業募集説明会には、多くの皆さんから参加していただきたいと思っている。町内へも周知をお願いしたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。